



一般社団法人

日本デフバドミントン協会

Japan Badminton Association of the Deaf

中長期基本計画

2024年～2028年



はじめに

日本デフバドミントン協会は2002年に設立し、早くも23年経ちました。この23年間、様々な国際大会をデフアスリートと共に経験を重ねてまいりました。聴覚障害者が初めてデフリンピックに出場したのは、1997年のデンマーク大会です。

その次の2001年イタリア大会にて、女子シングルス種目で金メダル獲得を果たしてから、聴覚障害者のバドミントン選手たちが世界に目を向けるようになったことをきっかけに、2002年に「日本ろう者バドミントン協会」として協会設立されました。

2018年3月に法人格を取得し、「一般社団法人日本デフバドミントン協会」となり、初心者から世界を目指す選手などで構成されており、競技を通して老若男女問わず、親睦を深めています。

今後、デフスポーツの普及、組織体制の強化、競技力の向上するなど取り組みを進めてまいります。

代表理事 中西 潤

組織の概要

団体名

一般社団法人日本デフバドミントン協会

*Japan B*adminton *A*ssociation of the *D*eaf

所在地

〒105-0013

東京都港区浜松町2丁目2番15号浜松町ダイヤビル2F

役員

代表理事 1名 理事 5名 監事 1名

会員数

会員数 85名
(2024年10月時点)

設立

2018年3月28日



組 織 図



一般社団法人
日本デフバドミントン協会
Japan Badminton Association of the Deaf

理 事 会

専門委員会

倫理委員会 ・ 強化委員会 ・ 広報委員会
競技委員会 ・ 運営委員会 ・ 選考委員会 等

会 員

一般会員 ・ 学生会員 ・ 家族会員 ・ 賛助会員

ナショナルチーム



DEAFLYMPICS
Recognised by
International Olympic Committee

加盟

一般財団法人全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会

- ・ 夏季デフリンピック競技大会派遣
- ・ 世界ろう者バドミントン選手権派遣
- ・ アジア太平洋ろう者スポーツ競技大会派遣
- ・ アジア太平洋ろう者バドミントン選手権派遣
- ・ 全国ろう者体育大会
- ・ デフスポーツ団体会議

協力

JAPAN SPORT
COUNCIL

日本スポーツ振興センター

加盟



日本パラリンピック委員会
Japanese Paralympic Committee

加盟



公益財団法人 日本パラスポーツ協会
JPSA JAPANESE PARA SPORTS ASSOCIATION



一般社団法人
日本デフバドミントン協会
Japan Badminton Association of the Deaf

基本理念・ビジョンと戦略レベル

理念とは、当協会が一般社団法人として公益事業を通じて社会的責任を果たすため、定款には以下のように定義されています。

日本における聴覚障害者のバドミントンの統轄団体として、バドミントンを通じて聴覚障害者スポーツの普及・振興を図り、もって広く国民の心身の健全な発展に寄与することを目的に運営する。



基本理念・ビジョンと戦略レベル



あるべき姿

基本理念

ビジョン

事業
戦略

人材
戦略

財務
戦略

事業
施策

人材
施策

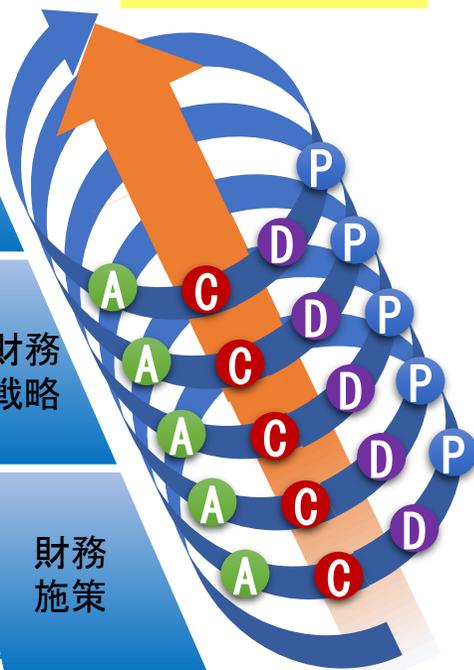
財務
施策

事業
計画

人材
計画

財務
計画

継続的改善サイクル



現状



ありたい姿

コンプライアンス・ガバナンス・フェアプレー

✓事業、人材、財務の3つの重点施策ごとに重要業績評価指標（KPI）を設定して、デフアスリーの価値向上というスパイラルアップ（継続的改善サイクル）を図っていきます。

✓事業計画、人材計画、財務計画の達成率向上のため、PDCAサイクルのうち「CHECK」と「ACTION」の機能を強化します。

そのため、重要業績評価指標（KPI）をモニタリングし、戦略や施策の見直しを行います。

また、定量的・定性的スクリーニングを行い、戦略、リスクの面で問題がある事業について理事会で対応策を審議します。

基本計画の構成

この計画は、スポーツ団体ガバナンスコードの「原則1」に対応するため、そこに示されている3つの計画の内容を包含した計画とします。

原則1 組織運営等に関する基本計画を策定し公表すべきである。

- 1、組織運営に関する中長期基本計画を策定し公表すること。
- 2、組織運営の強化に関する人材の採用及び育成に関する計画を策定し公表すること。
- 3、財務の健全性確保に関する計画を策定し公表すること。

出典：スポーツ庁「スポーツ団体ガバナンスコード〈中央競技団体向け〉」

【中長期基本計画2024～2028】

事業計画

- ・本協会が主催している事業の現状分析を行い、将来的な事業に関するビジョンの策定

人材計画

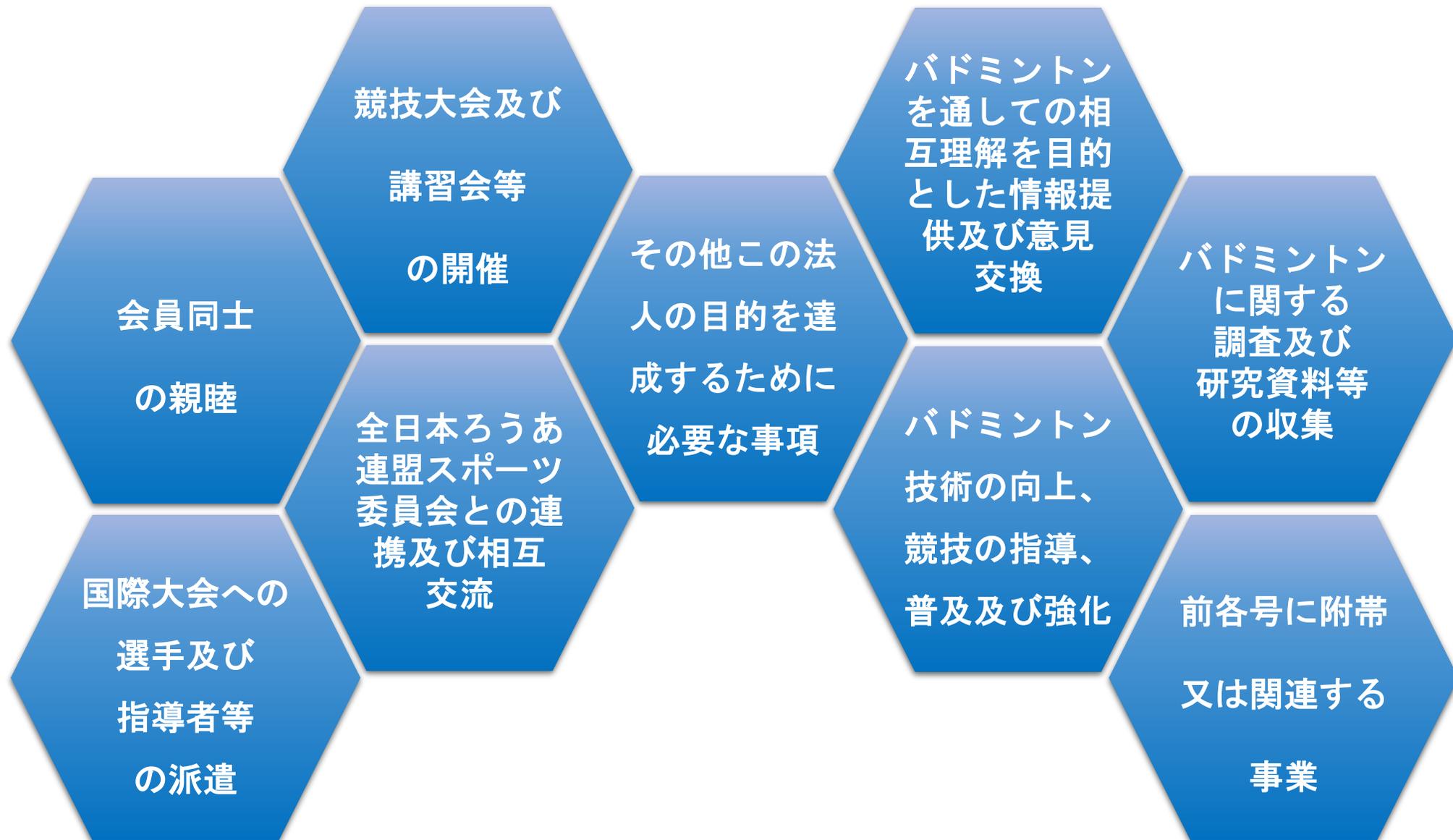
- ・本協会理事の稼働状況等に関する現状分析を行い、将来的な人材の育成・強化に関するビジョンの策定

財務計画

- ・本協会の財務に関する現状分析を行い、将来的な財務に関するビジョンの策定

※中長期基本計画とは、理念及び社会潮流を踏まえて3つを基本計画として掲げる5年後の到達目標です。

【事業計画】 現状分析



【事業戦略】ビジョンの実現に向けた施策

＜協会主催事業＞

- ・ 日本ろう者バドミントン選手権大会、日本ろう者ランキングサーキット大会
- ・ ナショナルチーム強化合宿 等

強化目標(概要)

将来、日本代表選手として、夏季デフリンピック競技大会、その他国際大会で活躍できる選手を発掘、育成する。アンチ・ドーピング教育及び体力測定等を実施し、日常生活での徹底化を図る。

協会主催事業に関するビジョンの実現に向けて、計画期間中は以下に示す施策に取り組みます。

“競技力向上を続け、「世界で勝てる競技」の技術を身につける”

【事業戦略】 ビジョンの実現に向けた施策

＜ガバナンス・コンプライアンス事業＞

スポーツ団体ガバナンスコードに示されている13の原則への対応を進め、本協会のガバナンス機能の向上を図るとともに、協会経営の公平性、透明性の向上を図る。

ガバナンス・コンプライアンス事業に関するビジョンの実現に向けて、計画期間中は以下に示す施策に取り組みます。

“中央競技団体としての責務を果たすために必要不可欠な基盤となるものであり、適切なガバナンス・コンプライアンスを基づいて実施する”

【人材計画】現状分析

女性の視点を反映していくことが重要であるため、40%以上が女性となるよう人材の確保及び育成

外部の視点を反映していくことが重要であるため、25%以上が外部となるよう人材の確保及び育成

障害について理解・知識を有し、手話によるコミュニケーションがとれることが望ましい

次世代を担う人材の確保及び育成

全国の聴覚障害者協会及び教育機関、地域のスポーツクラブ等との連携、交流を図る

スポーツにかかわる資格を有する人材の育成



【人材戦略】 ビジョンの実現に向けた施策

< 課題 >

- ・ 業務に携わる有給職員構成が1人もいない。ボランティアとして業務しているため、業務の継続的・安定的な実施に対してリスクを抱えている。
- ・ 協会の事務局業務のほかに、広報、財務、理事会運営、各委員会調整等管理部門の業務を兼務している。

人材の育成・強化に関するビジョンの実現に向けて、計画期間中は以下に示す施策に取り組みます。

“ 協会財務運営の見直し、自主財源の確保、協賛企業・支援団体の獲得を重点的に取り組み、有給職員雇用の確保を図る。 ”

【財務計画】 現状分析



【財務戦略】ビジョンの実現に向けた施策

＜本協会収入＞

- ◆会費、登録料：個人・賛助会員の年会費や加盟団体登録料など
- ◆事業収益：協会主催事業の参加料など
- ◆助成金：国からの助成金、企業または個人からの協賛金など
- ◆その他：受取利息、事業収益など

＜本協会支出＞

- ◆事業費：協会主催事業に関連する支出など
- ◆管理費：通信運搬費など
- ◆経常害損益：法人税、税務会計顧問料、事務所の賃借料など

＜課題＞

- ・事業費の規模に対する事業収入が少ない。（消費増税と人件費が大きな影響）
- ・協会の大き柱となる国の助成金で成り立っているため、順調に事業を実施してきたが、東京2025デフリンピック以降、国の財政が縮小の傾向見込み。

財務に関するビジョンの実現に向けて、計画期間中は以下に示す施策に取り組みます。

“協会財務運営の見直し、自主財源の確保、協賛企業・支援団体の獲得を重点的に取り組み、有給職員雇用の確保を図る。”



一般社団法人日本デフバドミントン協会
中長期基本計画2024～2028
2024年 10月21日 2024年度第6回理事会承認

<本計画に関するお問い合わせ先>
一般社団法人日本デフバドミントン協会
Email : info@jbad.or.jp